

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2872800301		
法人名	社会福祉法人 日の出福祉会		
事業所名	グループホーム 琴音		
所在地	兵庫県加古郡稲美町国安字新開1256番地		
自己評価作成日	平成22年9月21日	評価結果市町村受理日	平成22年11月11日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2872800301&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	兵庫県姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成22年10月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症があってもなくても、普通に暮らせるように支援している。利用者が安心して琴音で暮していけるよう家族会を発足し、家族との絆、スタッフとの信頼関係を深めていくことで来所も増え、双方の思いがスムーズに伝わってきているように思う。家族会の趣旨(利用者が安心して暮せる環境の構築に、家族との協力体制が必要との思いを重視する) 日々の生活に目的があり、個々の能力を活かせるよう、働きかけ、自信に繋げていくことで充実した暮らしが送れるよう日々努力しているところです。

道路側に介護施設が有り、その奥にどこか料亭の様な趣の落ち着いた玄関が現れる。駐車場側には、利用者が作業しやすい歩道の付いた畑が有る。季節の野菜が多種類栽培されており利用者・職員が協働して作った野菜のもぎ立てを献立にして楽しんでいる。又広いウッドデッキやバーベキューが出来るスペースが有り、家族が利用者と共に楽しむことが出来る。管理者・職員は、利用者へ自信を甦らせる支援・行動的にする支援・残存機能や先人の知恵を呼び起こす支援に拘り、家族と協働して行う支援・安心の暮らしを支える支援を心がけている。「傾聴し協働することで、利用者が行動的になった。」と自信を持っており、これからのホームの可能性を上げていこうとしている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果(やすらぎ)

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの理念として、事業所独自で「グループホーム琴音」憲章の5か条を作り、その理念を共有し実践に繋がるよう努めている。	事業所独自の理念「グループホーム琴音」憲章を玄関に掲げ、毎日のミーティング時に唱和し支援に迷った時には立ち返るようにしている。又新人研修時には理念の大切さを必ず研修し、職員は共有し実践につなげている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	昨年から体制を新たにし、地域との交流を深めていけるように努めている。	琴池の清掃や老人大学の講師等事業所として参加し、隣接の支援学校とは日常的に交流している。社会福祉協議会の開催する「高齢者家族の会」に情報提供を行っている。地域の小中学校や保育園・自治会・老人会と徐々に交流を深めていくことを計画している。	近隣の自治会老人会、小中学校、幼稚園等と、気軽に訪問しあう関係作りに期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人大学、介護教室、社協が立ち上げた家族会の参加、琴音での相談毎も含め、積極的に地域の人々に向けた貢献に努めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に運営推進会議を開き、取り組み状況、事例などを通し話し合いを行い、開かれた会議に努め、サービスの質を高める努力をしている。	2か月に1回定期的に運営推進会議を開いており、日常の報告、事例の検討、情報交換等を行い意見を事業運営やサービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の中でも利用者の事例を通し、ケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、密に協力関係を築けるよう努力している。	毎回事業所内で行われる。運営推進会議に市の担当者が出席しており、参加時に利用者やふれあう等積極的に交流しあう関係にある。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に施錠をせず、自由に出入りができるように取り組んでおり、会議の中でも話し合いの場を設けている。外出する際は付添い、その方に合った対応を心掛けている。	年1回身体拘束についての研修を行っている。夜間は防犯上施錠している。外出の際に付き添う等、利用者個々に合った対応を職員全員で心掛け日中は、施錠していない。	
7	(6)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃、個々の接し方について、注意を払うよう指導したり、ミーティングの際は、今日の予定の中で関わり方を伝え、実践するようにしている。ゆとりのある支援を心掛け、防止に繋げている。	年1回虐待防止について研修を行い、日々ミーティング時に関わり方や接し方について常に話し合い職員間で注意しあう関係が有る。常に無理をしない支援を行い、虐待防止に努めている。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議や研修等を通じて学習し、個々の必要に応じて話し合い、活用できるよう支援している。	活用につなげた例はないが、研修を行い、パンフレットも設置して必要な時には支援できるようにしている。	
9	(8)	契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の不安の軽減に努めるべき、説明を十分行い、事前の体験をする事で少しでも安心に繋げるよう努めている。又関係者で、本人、家族にとっていくつかの選択肢から相談を重ね、安心のできる理解、納得を図れるように努めている。	契約時には時間をかけ説明を行っている。事前に昼間の体験をすることで不安なく利用開始できる様支援している。又、改正時には、説明の文書を作成し、家族会等で説明を行い、理解を得るようにしている。	
10	(9)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族会を開き意見交換の場を設けている	日頃から利用者・職員は常に話し合い、協働することにしており、利用者の言葉に、傾聴し意見を聴き逃さない様になっている。家族会を2～3カ月に1回開催しバーベキューを楽しむ等、常に話し合える関係をつくっており意見が自然に交換できるようにしている。	
11	(10)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年毎の面談の中で、要望、意見を聞く機会を設けている。	日常はミーティングやその都度意見交換し、事業全体については、月1回の責任者会議において職員の意見を運営に活かして行く事としている。職員から「元気体操を毎日行う。」等のアイデアを取り入れ、実行している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	考課表による評価、面談等から努力や実績を把握する努力をし、個々の向上心を持つ様、研修会等の整備に努めているところ です。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一年間の計画の中で、個々に合った研修を受ける機会を確保し、毎月の会議の中で研修報告を行い、皆で取り組みをしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ネットワーク会議の参加		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの生活習慣等の情報収集、本人、家族と話し合いを行い、事前に琴音で他の利用者、スタッフとの顔あわせ自己紹介等を行い、少しでも安心を確保できるように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分な聞き取りを行い、密に連絡し関係作りに努めている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時、まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者個々の、必要としている支援を良く相談を重ね安心のできるサービスに努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の生き方を共有し、家事全般暮らしの中で教え教えられる活きた生活ができるよう努力しているところです。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会、毎月の近況報告の手紙を出し、誕生日行事など、常に家族と協力、支え合える関係作りに努め、家族の絆を大切にしながら、本人に安心した暮らしが築けるよう努力している		
20	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで大切にしてきた関係が途切れないように、家族とも相談しながら進めている。	家族と連携し、馴染みの理美容院の利用や買物、信仰関係者との交流等、馴染みの関係が、途切れないように、支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の様子を良く把握し、話しの合う人同士や、同じ地域の人同士で会話が出来るよう配慮したりお互いの良い面を出し合えるような環境作りに努めている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談に努め、運営推進会議、ボランティアにも参加していただき、契約終了後も関係無く良い関係を継続している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族の意向を十分に聞き、今迄の暮らしができるだけ継続して生活できるよう努めている。	日々支援の現場で傾聴し、家族の様な関係を心がけており、見聞きした情報を、ミーティング等において話し合っている。困難な場合も日頃の様子から、本人本位に検討している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今迄の生活習慣、生活歴、馴染みの関係などを十分聞き取りを行い、本人の安心に繋げるよう把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今ある能力、心身の状態の把握に努め、個々の暮らしの自主性、目的のある暮らしの実現に繋げるように努めている。		
26	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を反映できる計画の作成、又、会議、ミーティング等でケアの見直しを行い、実践に繋げていけるようにしている。	日々、ミーティングで介護現場の意見やアイデア・必要な関係者の意見を月2回開催されるケース会議で家族や職員が検討し常に現状に即した計画をつくることにしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活記録、毎朝のミーティング、会議で共有し、見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	いつでも柔軟な対応がとれるよう日頃からその意識で取り組んでいる。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今迄の地域資源の利用を試みたが、能力的な問題もあり、実現できなかったが、今後も本人の望む事であれば支援していきたい。		
30	(14)		かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との信頼関係、本人、家族の希望を大切に、往診、受診で適切な医療が受けられるよう支援している。	協力医による往診があり利用できる。その他受診や専門医の受診も家族と協力しながら行えるよう支援している。	
31			看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一週間に一度、バイタル測定、相談をしている。緊急時も連絡し指示を受け、適切な受診、看護が受けられるよう支援している。		
32	(15)		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は家族との連携、状態確認などを密に行い、家族、医療関係者との情報交換や相談に努めている。	入院時には管理者が必ず付き添う事とし情報は、書面と口頭で伝える事としている。入院期間中は見舞いと情報交換を密に行い早期の退院に向け病院関係者や家族と連携している。	
33	(16)		重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から予測できる事を家族などと話し合いを行い、十分に説明をしながら納得のできる支援に取り組んでいる。	入居時に終末期に繋がる事態について説明し事業所の方針や出来る支援・出来ない支援について、十分に説明すると共に、家族・職員で共有し、納得して頂けるよう取り組んでいる。	
34			急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網の作成、事故発生時の対応を含め、会議などで実践力を身につけるように努めている。		
35	(17)		災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回の訓練を行っている。総合訓練、夜間想定新職員には消火器を使っての訓練も行う。	隣接の法人施設等と協力関係が有り、年4回総合訓練を行っている。夜間を想定した訓練も行っている。地域消防団自治会等との協力体制はまだ至っていない。	自治会等と交流し、災害時に、支え合う関係の構築が望まれる。又、地域消防団と協定し、協力関係にあることが望まれる。

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に気配りした対応に努めている。	職員個々に研修計画が有り外部研修や伝達研修・ミーティング等において、常に研修し、配慮を怠らないようにしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らしの中で、自己主張できる環境に置き自由、活発に話しができる雰囲気にも努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活が、個々のペースに合わせた暮らしになるように努めている。業務を優先しないよう、日々のミーティングの中で、個人に接する予定を発表するようにして、希望に添えるようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いつでもおしゃれを楽しめるような支援に心掛けている。		
40	(19)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りもその人に合った部分の手伝いをお願いしながら、昔話などの会話を楽しみつつ一緒に片付けをしている。	利用者・職員が協働して栽培した野菜を使い、献立を話し合い、共に囲む食卓で話題にして楽しんでいる。椅子に座ったまま、作業が出来るようにしたり、得意なことが出来る等、調理・配膳・片付けに利用者が参加しやすい雰囲気と工夫がされている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に摂取量は異なるが、水分量も1日を通じて確保できるよう、個々の状態を把握し支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に応じて食後、口腔清潔を保てるよう支援している。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限り自立での排泄ができるよう、工夫し対応している。	日中はライフチャート(記録用紙)を利用し、言葉かけに注意しながら排泄支援を行っている。はくパンツを利用しオムツは極力使用しない支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫や運動を勧めるなど身体を動かす事を働きかけ、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(21)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を嫌がる方にも好きな音楽を掛ける等の工夫をしたり、希望やタイミングを見る、家族が付き添うなど個々に添った支援をしている。	菖蒲湯やゆず湯等季節に即した入浴を楽しめるように支援している。又入浴嫌いの利用者に対して好きな音楽を楽しみながらの入浴や家族と協力しながらの入浴等工夫を行っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来る限り、日中は身体を動かさず、楽しむ、状況に応じて休息を勧めたりの支援をしている。夜は安眠できるように日中の暮らしの充実を図っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬、副作用、用法など、皆が理解し支援できるよう連携に配慮している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事全般の中での役割り、個々の楽しみごと(カラオケ、歌、喫茶、将棋、ゲーム、クイズ、畑)気分転換などの支援をしている。		
49	(22)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に一回外食したり、服を買いに行ったり、外泊など、家族との協力をしながら出かけられる様に支援している。	天候や体調を考慮し、希望に即した外出や散歩を心がけている。希望による遠方への買物や外泊など家族と出かけられる様連絡し合う等、支援している。又、月1回遠出をして外食を楽しむ等、外出支援を行っている。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々に応じて管理できるかたはお金を所持し、いつでも使えるように支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、いつでも対応できるようにしている。		
52	(23)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には観葉植物、庭、ウッドデッキに草花を植え室内からも見えるようにしたり、テーブル、椅子を設置し、いつでも、どこでも利用できるよう配慮している。和室もあり居心地良く過ごせるような工夫をしている。	広いウッドデッキや、四季の花々が咲くガーデンニングが、共用スペースの大きな掃出し窓や居室から楽しめる。又椅子やテーブルもあり日向ぼっこも楽しめる。和室には炬燵が有り心地よいスペースになっている。フロアやエントランスも広く明るい。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で、和室で一人で過したり、気の合った者同士でソファーに座ったり、ひだまりで過す、庭のテーブルで食事するなど、思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	(24)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今迄使われていた物、使い慣れた物や好みの物を、本人、家族と相談しながら居心地良く過ごせるよう工夫している。	居室の前には、個人用のロッカーや飾り棚が有り趣味のものや、作品が飾れるようになっている。室内は十分なスペースが有り居宅で使用していた使い慣れた道具が持ち込まれており、職員は家族と話し合っ、利用者の希望に沿った居室作りを支援している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かるように張り紙をしたり、入浴時、手摺りを持つ事で浴槽が跨げる、歩行器、老人車などがあれば歩行ができ、自立した生活を送れる工夫をしている。		